

天竜川の概要

天竜川は、その源を長野県茅野市の八ヶ岳連峰に位置する赤岳（標高2,899m）を源とし、諏訪盆地の水を一旦諏訪湖に集めます。諏訪湖の釜口水門から、三峰川、小渋川、大千瀬川、気田川などの支川と合流しながら、長野県の伊那谷を経て山間部を流下し、さらに遠州平野を南流し、遠州灘に注ぐ流域面積5,090km²（全国12位）、幹川流路延長213km（全国9位）の一級河川です。

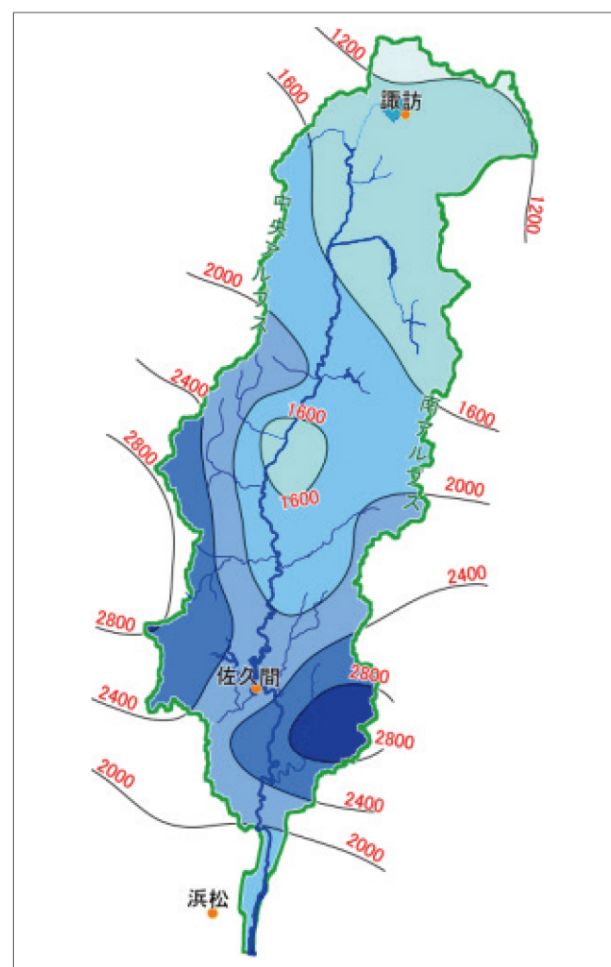
天竜川の流域は、長野県、静岡県及び愛知県の3県にまたがり、諏訪市、伊那市、駒ヶ根市、飯田市、浜松市、磐田市等の主要都市を有しています。

流域には、東名高速道路、新東名高速道路、中央自動車道、国道1号、東海道新幹線、中央本線、飯田線等、日本の産業・経済の根幹をなす主要な交通が集中し、交通の要衝となっています。

流域の年間降水量は、上流域は内陸性気候のため平地帯で1,200mm～1,800mmと少なく、それを東西に挟む南アルプスや中央アルプスの山岳地帯では1,400mm～2,800mmと多く、中流域は山間地形のため南からの暖湿気流の影響により、1,800mm～2,800mmと多くなっています。

下流域は典型的な太平洋側気候のため1,700mm～2,000mmとなっています。

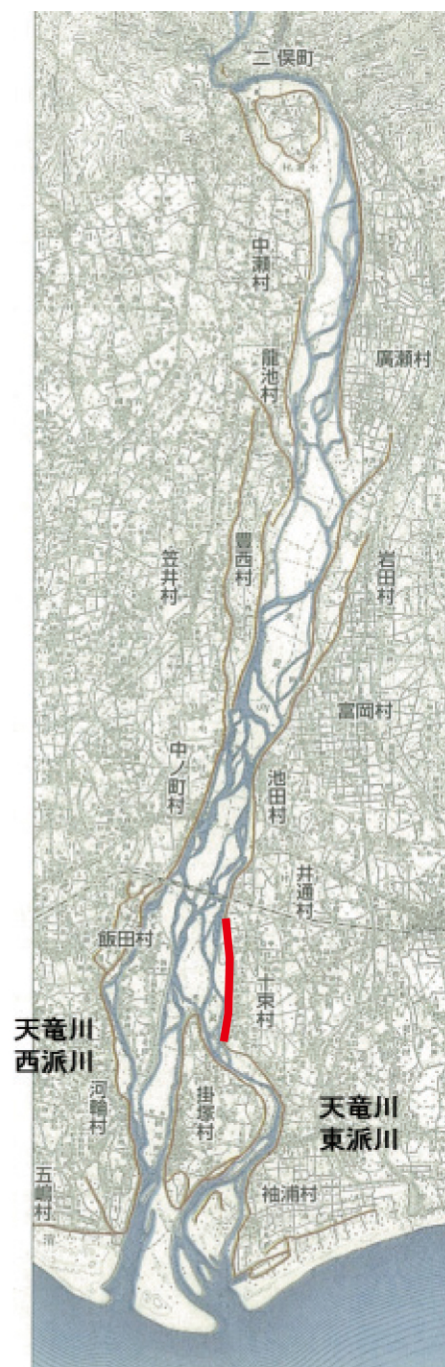
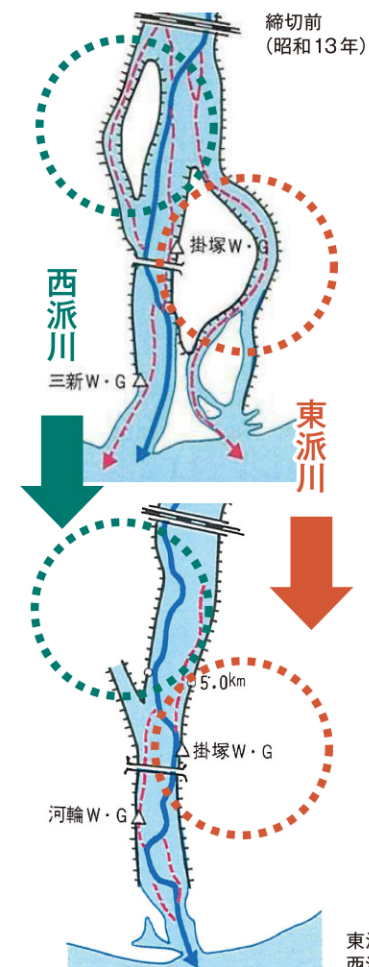
流域面積(集水面積)	5,090km ²
流域面積(天竜峡基準地点上流)	2,670km ² (52%)
流域面積(鹿島基準地点上流)	4,880km ² (98%)
幹川流路延長	213km
流域内人口	約72万人 (第9回河川現況調査)
想定氾濫区域面積	約205km ²
想定氾濫区域内人口	約46万人
想定氾濫区域内資産額	約6.7兆円
主な市町村	10市12町15村 諏訪市、伊那市、飯田市(長野県) 浜松市、磐田市(静岡県)等



遠州天竜川 災害と治水の歴史

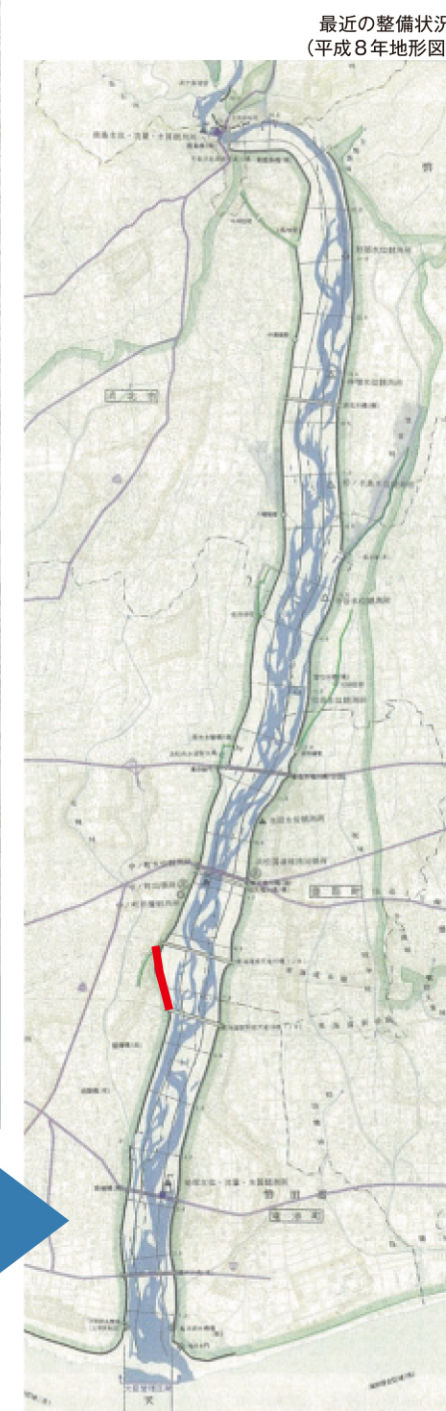
天竜川は、「暴れ天竜」として知られるとおり、流域は過去に多くの洪水による被害を受けてきました。その歴史は、遠州平野では、和銅8年(715年)にまで遡り、以来、幾度となく洪水を繰り返して現在に至っています。

天竜川の下流域は、流域各地で水害の発生件数が多いことも特徴で、明治以降、昭和55年(1980年)までの100年間に発生した水害の数は、実に100回を数えます。これは毎年一度は流域のどこかで水害が発生していることを示しており、本流域における水害の多さを示す数字であるといえます。



第二次改修前の流れ
(大正8年地形図)

締切箇所



最近の整備状況
(平成8年地形図)

大日本帝国陸地測量部と国土地理院発行の5万分の1地形図を使用しました。